

03 この信用はいつまで続くのか。

信用と借金

～日本国の財政を家計に置き換えて考察してみる～

この原稿を書いているちょうど今、国会では平成27年度の補正予算案(総額3兆3213億円)についての審議が行われている。国家予算の数字はあまりにも桁が大きすぎるため、その予算規模や予算構成について、我々、一般消費者には分かりにくいところがある。そこで今回はすでに成立している平成27年度一般会計予算の構成について、ニッポンさん宅の家計に例えて見てみたいと思う。ニッポンさんの年間支出は生活費(政策実行に必要な経費)が728万円で、その内訳は医療費等(社会保障費)に315万円、仕送り(地方交付税)に155万円、居宅の修理等(公共事業)に59万円、教育費(文教及び科学振興)に53万円、防犯(防衛)に49万円、その他に95万円となっている。これに加えて借金の返済(国債等)が年間234万円あり、ニッポンさんの平成27年度の年間総支出は、963万円となる。なお医療費、仕送りそして借金の返済だけで704万円となり、

総支出の7割以上を占めている。

それに対して収入はどうなっているだろうか。通常の稼ぎ(税金)として年収545万円、妻(夫)のパート代(税外収入)として49万円、これに追加の借金(国債発行)が年間368万円で、ニッポンさんの年間総収入は963万円となり、収入の4割弱を借金(将来世代の負担)に依存しているということになる。ちなみにニッポンさんの借金の残高(国債発行残高)は平成27年度末で8070万円である。実際には国家予算と家計を全て同列に置いて比較することはできないが、それでも今この国が抱えている現状を把握することは十分可能だと思う。年収の実に15倍にもなる借金を抱えつつ、なぜさらに借金をすることができるのか。それはニッポンさん(日本国債)なら返してもらえらるだろうという「信用」の上に成り立っているからだ。

しかしながら、無担保・無保証、お客様の信用を重視

の私たち消費者金融であっても、ニッポンさんに関しては「多重債務者」と見なして融資を停止してしまうと思うのだが…。

日本ファイナンス有限会社
下関店 店長
松原 剛

AFP(日本FP協会認定)

TEL083-234-3544

<http://nihon-finance.com>

借金で苦しむ人への的確なアドバイスで定評がある、消費者金融のプロフェッショナル。弁護士の人脈、債務カウンセリング、真摯に相談に乗る姿勢が認められ、感謝の声が多数寄せられている。ラジオなどのメディア出演を通して、借財に対する正しい認識を広めている。

